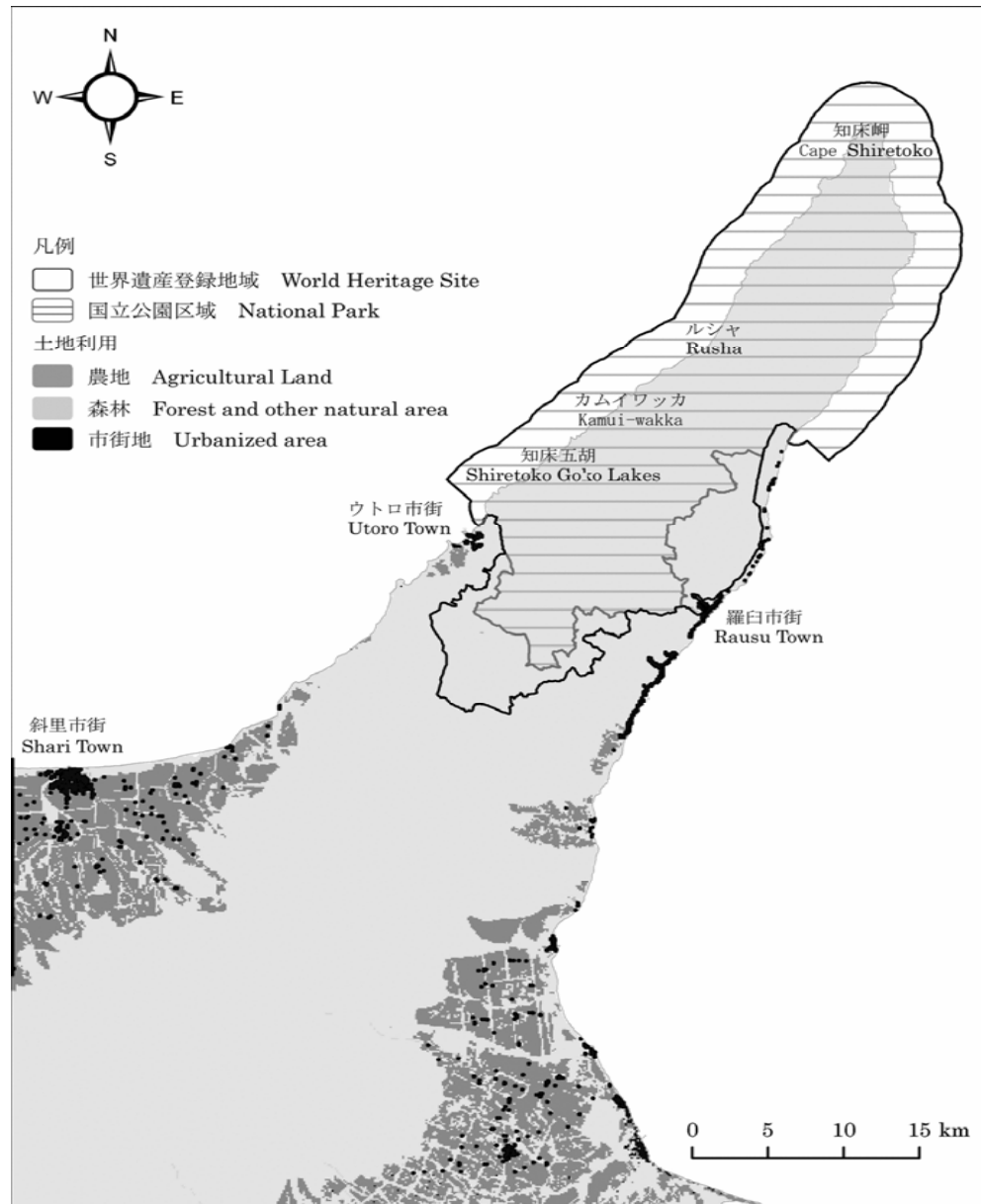


知床の漁業



知床世界自然遺産地域の概要



- 2005年に登録。
- 周辺海域は、流氷のもたらす恵みにより、豊かな生態系を形成。
- 日本で初めて漁業が営まれる海域を世界遺産地域に含む。
- 持続可能な漁業との共存が課題。

海域管理計画の概要

(2007年度第2回知床科学員会資料から抜粋・要約)

1 基本方針

- 漁業に関し、既存法令や自主的管理を基調
- 生態系の保全と水産資源の維持
- モニタリングの実施

2 保護管理の考え方

- 魚介類・・・サケ類、スケトウダラ類を指標種に位置づけ、持続可能な利用を推進
- 海棲哺乳類・・・トドやアザラシ類を指標種に位置づけ、保護管理を実施

例えば羅臼漁協では・・・

(2007年度第2回知床科学員会資料から抜粋・要約)

スケトウダラ漁における自主管理

1 減船

1988年／193隻 → 2007年／83隻

2 共同経営体方式

2002年より、5隻で1グループを構成し、内1隻を交互に休業。

3 漁具制限

規則で認められている目合い91mmではなく自主的に97mm以上の刺し網を使用。

4 漁場別漁獲量把握

漁場内に34海区を設定し、海区毎に漁獲量、漁獲時期を記録。資源評価に活用。

5 禁漁期・禁漁区

1997年からスケトウダラの産卵期の一定期間、漁場内に禁漁区域を設定。

6 資源調査

産卵時期と規模の把握のためスケトウダラの卵と稚魚の分布等を調査。